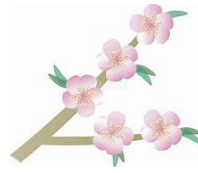


相談支援つうしん



県立湘南支援学校
支援連携グループ
相談支援班 第10号
令和6年3月14日(木)

先日、高等部の卒業式が行われ新たな生活への旅立ちの日になりました。また、小中学部の卒業式が本日举行されました。

卒業生の皆さん、そしてご家族の皆様、誠に卒業おめでとうございます。

春から、新しい生活がスタートすることになりますが、心からの応援とともにどうぞお体大切にお過ごしください。



さて、今回は、【切れ目ない支援部会のアンケート報告（別紙参照）】をさせていただきます。



県立学校では、学校運営に保護者や地域の方々が参画し、地域ならではの創意や工夫をいかした教育活動を展開するために「学校運営協議会」を設置しています。

（コミュニティースクールとも呼ばれます）その会の必須の下部組織として、「切れ目ない支援部会」があります。

今年度は、「切れ目ない支援部会」において、平塚近隣の福祉事業所（56カ所）にアンケートをお願いしました。アンケートの内容は、『学校で児童生徒に支援をしているコミュニケーションスキルやスケジュール、工程表等の支援ツール（意思疎通や活動の手がかりになるもの）について、各事業所でどのようなものを使用されているかの実態調査をさせていただきました。そして、24カ所の事業所からご回答をいただきその内容を別紙にご紹介したいと思います。

今回の結果でも、「個々の利用者に合わせて支援をしている」という取り組みのご報告もありました。また「事業所の状況によって対応を検討する」というご報告もあり事業所の利用者人数や支援者人数等によって状況が違ってくるが見えました。利用者ご本人の日々の生活において、その質が上がるために支援者側において必要な支援は何か、安心して利用者が本人らしく活躍するためには何が大切なのかは、各事業所で模索されているようです。

学校現場からすると、活動場所それぞれに利用者本人が必要だと感じる手がかりがあることは大切ではないかと感じます。ただ、事業所によっては人的配慮の難しさやその準備がしにくいことも考えられますが、検討することは重要なことだと感じます。

ご家庭や学校で培った力を発揮するために、子どもたちが必要とする手掛かり（支援ツール）を共有するにはどのような形が良いのか、さらに探っていく必要があると感じました。子どもたちへの切れ目ない支援を進めていくために、事業所の皆様とも、より一層情報共有をしていきたいと考えています。今回のアンケート結果は、福祉事業所の皆様にも報告させていただきます。保護者の皆様もご意見とまたアイデア等ございましたら、ぜひお寄せください。



【ちょっと休憩】

母が、「ひ孫のために毛糸のおくるみを作る」と宣言をして早や4ヶ月。

昔から毛糸でかぎ編みをしながら膝掛け等を作っていたので、脳疾患がある母ですが、今でもなんとなくかぎ編みのやり方は覚えているようです。「長編みを3回やって、細編みを2回やってかけ目を1回して・・・」等と本人なりに編み物の製



図を見ながら編んでいるものの、指示書通りに編み込むには集中が続かないでしょう。徐々にぎっくりと本人の手の動きに合わせるような感覚で編んでいるようです。

そんなこんなで出来上がった1枚目のベビーピンクのおくるみは、本来は正方形の予定でしたか長方形に仕上がりました。「ちょっと違うわね？」と少し困惑した顔をする母に、妹も「まあいいじゃない？長方形だと赤ちゃんをくるみやすいからね」とナイスフォローを入れてくれたようで「まあ、いっか!!」と言うことになったようです。(そうそう、それでいいよね。妥協も大事!)「だって、ライトブルーの毛糸を使ってもう1枚仕上げないといけないし!」と、さらに期日が迫る中2枚目を仕上げるべき今も奮闘中です。(ひいおばあちゃん頑張る!!)

人は、想定していた通りに物事が進まないといライラします。よくあるのは、天気予報は晴れなのに雨で洗濯物がびしょびしょ。「モー、晴れるって言ったじゃない!(激怒!!)」なんてことがありますよね。脳の中では、想定通りになると「ドーパミン」という脳内物質が出ていい気持ちになりますが、想定通りにならないとドーパミンが出ないのでイライラするということになります。母の場合は、製図通りの仕上がりにはならず「ちょっと違う!」と感じたのだと思います。(そんなにイライラしないでよ、大人なんだから!!)

また、予想と違う結果になって、ガッカリすることになりネガティブに物事を捉えることもあるかと思いますが、『フレームワークを変える』考え方をすることが大切です。ネガティブに思えたことも、別の視点でポジティブに見ることが大切です。「災い転じて福となす」「失敗は成功の母」と言いますよね。視点を変えて物事を俯瞰してみることは重要です。

そして、人の脳は、感情をつかさどる大脳辺縁系と呼ばれる領域が「ワクワク・イライラ・メソメソ・ニコニコ」を感じ取り、それらが暴走しないように、オデコの下にある前頭前野が制御装置になって、物凄く怒ったり、興奮状態になり過ぎないようにしています。

ただ、前頭前野は成長の時期がとても遅く大人になるころ完成します。「若気の至り」って言いますよね。大人になると感情をコントロールして暴走しないようにしているのですが、母のように脳疾患がある場合や発達障害の方等の脳は、脆弱性があるとされており、必要以上に怒りや喜び等も含めた感情のコントロールがしにくいとされています。



4月から新しい生活が始まります。「どんな生活が待っているのか?一緒にお仕事する人はどんな人?新しいクラスはなかよしのお友達と一緒にかな?先生は誰だろう?」等、ドキドキ、ワクワクですね。みんな心配だよね。「アーちょっと心配だな!」「ドキドキしちゃうな」そんな気持ちを誰かに伝えたり、紙に書いたりしてみましょう。頭の中の気になることを書くことで、脳の負担が減り物事を少し整理できます。気になることをカテゴリーに分けて、それにネーミングを付けて解決できそうなことについては取り組み、できないことは相談したり先送りにしたりして時間に解決してもらいます。

子どもも大人も一緒に、ちょっと予測と違って「まあ、いいか!なんとかなる!大丈夫、大丈夫!笑顔でね!」とエールを送りたいです。



今年度も保護者の皆様からは、23件のご相談をいただきました。ご家庭の困りごと等を一緒に考え、解決につなげ、また解決できなかった時は、試行錯誤を重ねたりしてまいりました。次年度もお気軽にご相談ください。お待ちしております。

文責 橋爪